



1



知っていますか、このサイン?

- 南海トラフ巨大地震に備えて -



淀川区内で見かけるこれら3種類のサイン、南海トラフ巨大地震が起きた時にどこに逃げればいいのかを示すものです。

「津波避難ビル」は現在、淀川区内で区民センターや小中高校などの公共施設、マンションやホテルなどの民間施設合わせて253ヶ所が指定されており、8万9802人が収容できます。

区内の電柱など360ヶ所に取り付けられた「避難場所誘導表示板」は、避難場所と方向、距離を示しています。

また、区内76か所の淀川区広報板には、浸水などの水害に備えるためにその地点の海拔を表示しています。付近の津波避難ビルを表示した地図も掲示していますので、ご覧ください。

2



3



防災・減災対策を積極的に推進



加治木府議



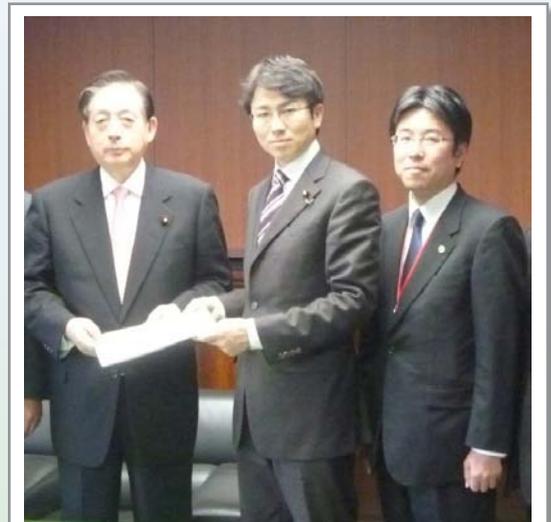
南海トラフ巨大地震や豪雨による土砂災害の被害を抑えるべく、大阪府のさまざまな防災・減災対策を加治木一彦府議はじめ公明党府議会議員団が積極的に後押しをしています。

お隣の西淀川区の神崎川沿いの地域は、南海トラフ巨大地震で地盤が液状化した場合、津波が来る前に浸水の恐れがあると

して防潮堤の耐震工事を急ピッチで進めています。

今年1月、加治木府議は国重徹衆院議員、西淀川区選出の佐々木哲夫市会議員と

ともに太田昭宏国土交通相に予算要望をしました。これからも地域の安全・安心を守るべく、国・府・市が一体となって取り組んでいきます。



太田国土交通相に要望する加治木府議(右)ら

「福祉バス」来年度の継続へ向けて



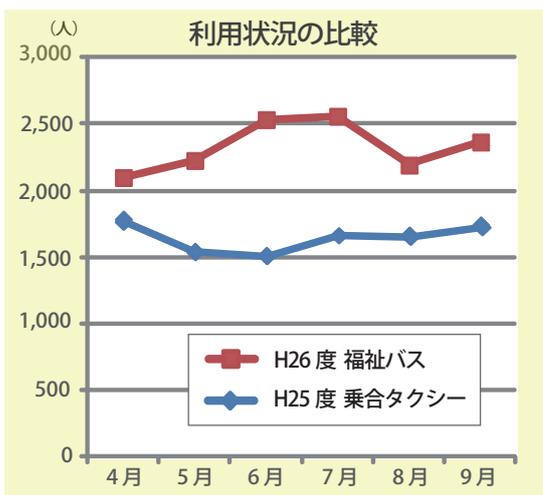
十三市民病院や淀川区役所と阪急十三駅、JR加島駅を結ぶ「福祉バス 夢ちゃん号」を来年度も引き続き運行できるよう、杉田忠裕市議が地域の要望を受け淀川区役所と詳細な条件などの協議を進めています。

杉田市議、地元の熱意受け強く推進！

今年1月、木川・三津屋・加島地域の代表とともに杉田市議が淀川区役所に運行継続の要望書を提出し、4月からの夢ちゃん号運行が決まりました。平成24年度までの赤バスや25年度の乗合タクシーに代わる移動手段として利用者が増加しており大変喜ばれています。



区役所幹部に要望する地域代表と杉田市議(1月)



地下鉄の授乳室設置広がる 平成28年度 西中島南方に続き新大阪に

◇公明党市議団が推進◇

大阪市営地下鉄の駅に授乳室を設ける動きが広がっています。淀川区内だと今年1月の西中島南方駅に続き、平成28年度に新大阪駅に救護室兼用で新設されます。10月6日の大阪市会決算特別委員会で公明党議員の質問に市交通局が答弁で明らかにしました。



授乳室は現在、西中島南方、淀屋橋、天王寺、京橋、出戸の5駅に設置されています。「電車内ではどうすることもできないので助かる」「落ち着いて授乳できる」など、利用者の歓迎の声が寄せられています。



公明党市議団は今後も地下鉄駅への授乳室設置を進めていきます。
【写真は西中島南方駅授乳室】

十三市民病院 救急医療体制の構築進む



救急医療について質疑する杉田市議



休日救急診療が週2回に増加 日曜に加え土曜も

市立十三市民病院の内科の休日救急診療が11月1日(土)より土、日の週2回に増えます。受付時間はどちらも午前9時から翌日の午前9時までです。ただし、日曜の振り替えなどで月曜が休日の場合は月曜に、大型連休の場合は最後の休日に実施します。

